

2022年6月24日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 114 「研究の意義」 森田 亜矢子 (関西大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshimi.jp/>)

■メディカルオンライン会員向け無料閲覧サービスの導入と 2022 年度 ID・パスワードのお知らせ (機関誌編集委員会より)
日本健康心理学会では、今年度より本学会の機関誌論文をメディカルオンラインに登録し、「メディカルオンラインの会員向け無料閲覧サービス」を導入しました。今後は、J-STAGE だけではなく、メディカルオンライン上でも機関誌論文が閲覧可能になります。
下記 URL にアクセスの上、学会専用の ID とパスワードを入力すると各雑誌アーカイブへ移り閲覧が可能となりますので、メディカルオンラインの法人会員規約をご確認の上、ご活用ください。
なお、本学会では、機関誌論文の閲覧につきまして、1 年間は本学会会員限定としておりますので、メディカルオンラインでの最新号の公開は、健心学会限定 1 年間経過後となります。

- Journal of Health Psychology Research (2016-21 年)
<https://mol.medicalonline.jp/library/archive/select?jo=fo3psych&UserID=110007301-07>
- 健康心理学研究 (2011-15 年)
<https://mol.medicalonline.jp/library/archive/select?jo=fo3health&UserID=110007301-07>

日本健康心理学会専用のアカウント情報

メディカルオンライン : <https://www.medicalonline.jp/>
2022 年度の ID : 1100007301-07
パスワード : 6uyq4yvs

※ID とパスワードは年度ごとに発行されます。
※本サービスにおいて、一定時間内に論文を大量にダウンロードすることは、規約で禁止事項となっておりますのでご注意ください。

■アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞の応募開始について (国際委員会より)
本賞は、健康心理学の国際学会での優れた発表に授与されます。2022 年度も、バーチャル大会も対象となります。
詳細は、以下をご覧ください。
URL : https://kenkoshimi.jp/doc/2022_ECHP.pdf

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の 6 月記事のお知らせ (国際委員会より)
“Linking the Elephant to the Rider: The Role of Motivation”の日本語記事「象と象使いをつなげる：モチベーションの役割」が掲載されています。
下記 URL よりご高覧ください。
<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2022/06/linking-the-elephant-to-the-rider-the-role-of-motivation/#more-2485>

■第 128 回 健康心理学オンライン研修会のご案内 (研修委員会より)
研修委員会では、第 128 回オンライン研修会の事前申し込みを受付中です。
2022 年度のテーマを「地域の中で活かす健康心理学」とし、今回は神戸医療福祉大学の藤田益伸先生より「地域共生社会に向けて健康心理学が果たす役割」をご講演いただきます。
こちらの URL からお申し込みできます。
<https://kenkoshimi.jp/kensyu/kensyu2.html>

一般の方の参加も可能ですので、お知り合いの方へもぜひお声掛けください。
多数の皆様のご参加をお待ちしております。

・事前申し込み期間 : 6 月 26 日(日)まで
・動画配信期間 : 6 月 27 日(月)~2 週間

2) 健康心理学コラム Vol. 114

「研究の意義」
森田 亜矢子 (関西大学)

教壇に立って 20 年余になる。初期には医療系の専門学校で健康心理学の授業を担当した。「健康心理学という新しい学問があると聞いた。担当してくれないか」という依頼であった。初回授業で「健康とはどんな状態でしょうか」と質問すると、例年およそ 20 人中 19 人が「病気でないこと」と答え、心の問題に触れる学生は 1 名もいなかった。近年は半数以上が「悩みがないこと」「生き生き過ごせること」等の精神的要素を挙げる。彼らは統計的に最も健康な層であり、精神的健康が主要な関心事なのは実情に合う。この 20 年で生じた意識の変化は、心の健康問題に取り組んでこられた関連団体や諸氏のご尽力の賜物と思う。20 年前の学生も、心の問題の重要性は言外に理解していたようだ。WHO 憲章が謳う健康の定義や予防の概念、病や老いや障害と共に生きる健康のあり方をすんなりと理解してくれたからである。1988 年に発足した日本健康心理学会の活動成果は世に現れ始めており、彼らは世間の情報と経験を頼りに暗黙知 (Polanyi, 1966 高橋訳 2003) を身につけていたのだと思う。また研究者の卵であった私に教授できたものは、彼らが既に有する知識が精緻な認識に至る媒介としての言語表現に過ぎなかったかもしれない。今でも、研究者である私より一般の人々のほうがよほど深く主題を理解しているのではないかと思索する時があるのだが、熟達化につながる省察的実践 (楠見, 2013) に寄与する知識表現を生み出すこともまた研究の意義であり、教育と研究は表裏一体なのだ改めて気づくこの頃である。

楠見 孝 (2013). 大人の学び 佐伯 胖 (監修) 「学び」の認知科学事典 (pp.249-263) 大修館書店
Polanyi, M. (1966). The tacit dimension. ポランニー, M. 高橋 勇夫 (訳) (2003). 暗黙知の次元 筑摩書房

日本健康心理学会広報委員会
<http://jahp-public.blogspot.jp/>
メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで
日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >
メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで
広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >
過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<https://kenkoshimi.jp/health/health1.html#mailmaglist>